

## 肺がんの確定診断に対するニーズに幅広く対応 ディスポーザブル吸引生検針「ViziShot2」に新たなラインアップを追加

オリンパス株式会社(社長:笹 宏行)は、肺領域で使用するディスポーザブル吸引生検針「ViziShot 2 (ヴィジ・ショット・ツー)<sup>※1</sup>」に新たなラインアップを追加し、2019年2月8日(金)から国内で発売します。

ViziShot2 は、「超音波気管支ガイド下針生検(以下、EBUS-TBNA)」という手技を行う際に使用する針(処置具)です。本手技では、超音波内視鏡を用いて肺のリンパ節や病変に針を刺し、検体を採取します。採取した検体を用いて病理診断を行い、分子標的薬治療<sup>※2</sup>や免疫療法<sup>※3</sup>の適用など、今後の治療方針を決定します。

この度、2017年2月に発売したディスポーザブル吸引生検針「ViziShot2」の新たなラインアップとして、細径(25G)の針を発売します。これにより、これまで穿刺が困難だった気管支へのアクセスをサポートし、EBUS-TBNA の診断精度のさらなる向上に貢献します。

※1 本製品の愛称。販売名は以下「発売の概要」を参照

※2 ゲノム・分子レベルでがん細胞の特徴を認識し、がん細胞の増殖や転移を行う特定の分子のみに作用する薬を投与する治療法。

※3 体の中に侵入した異物を排除する能力(免疫)を高めることでがん細胞を排除し、がんを治療する方法。

免疫が弱かったり、がん細胞が免疫にブレーキをかけたりすると、がん細胞を排除できず増殖していく場合もある。

### ●発売の概要

販売名	発売予定日
ディスポーザブル吸引生検針 NA-U401SX-4025N (愛称:ViziShot 2:ヴィジ・ショット・ツー)	2019年2月8日(金)

### ●主な特長

1. 針を細く、かつ柔軟性を向上させたことにより、スムーズな手技の実現をサポート
2. 針の後部を鋭利にしたことにより、針先全体の刺さりやすさ向上に寄与



ディスポーザブル呼吸器用吸引生検針「ViziShot 2:ヴィジ・ショット・ツー」

## ●開発の背景

国内がん死亡原因の第1位である肺がんは、近年、分子標的薬治療や免疫療法など新たな治療法の開発が進んでいます。これらの治療法では、薬の適用を決定するためにEBUS-TBNAで検体を採取し、病理検査による確定診断を行います。

病理検査の精度を高めるためには、狙った部位へ針を正確に刺し、質の良い検体をより多く採取する必要があります。これらの要望に応えるため、当社は2009年に「ViziShot」、2017年に「ViziShot2」「ViziShot2 FLEX」を発売し、EBUS-TBNAの手技をサポートしてきました。

このたび、「ViziShot2」のラインアップに細径(25G)の針が加わります。針の柔軟性と刺さりやすさが向上し、従来品では手技が困難だった部位に対しても、より確実な手技の実現をサポートします。

## ●主な特長の詳細

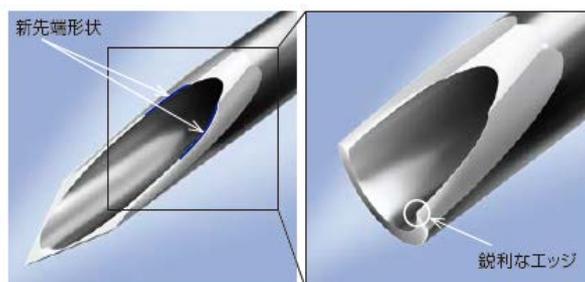
### 1. 針を細く、かつ柔軟性を向上させたことにより、スムーズな手技の実現をサポート

既存のViziShot2に比べ針を細く、かつ柔軟性を向上させたことで、スコープを大きく曲げても抵抗の少ない針を目指しました。EBUS-TBNAは、枝分かれする気管支の様々な部位にスコープを挿入し、軟骨や血管を避けて針を刺す必要があるため、スコープの操作性が求められます。細径で柔軟性のある針をラインアップに加えたことで、これまで穿刺が困難だった気管支へのアクセスをサポートします。



### 2. 針の後部を鋭利にしたことにより、針先全体の刺さりやすさ向上に寄与

針を細くすると柔軟性が向上する反面、力を加えづらく刺さりやすさが落ちてしまうという課題がありました。今回、針の後部に鋭利なエッジをもうける新形状を採用したことで、針先全体での刺さりやすさの向上を目指しました。



オリンパスは本年10月12日に創立100周年を迎えます。

これまで当社の発展を支えてくださったお客さまをはじめ、ステークホルダーの皆さまに心より感謝申し上げます。これからも世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現を通して、社会に貢献してまいります。

本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。